

## 記者懇談会の記録

日時	令和4年4月28日（木）15：30～16：05
場所	岩見沢市役所4階 委員会室2
記者数	4人

### 1 令和4年度 工事発注計画について

（市長）

令和4年度の工事発注計画についてです。

新型コロナウイルス感染症の長期化により、岩見沢市の経済情勢は厳しい状況が続いているとともに、今後の感染状況や経済状況の動向に注視が必要であると考えているところです。

このような状況下ですが、本市は、地域経済と雇用をしっかりと支えるために、市民生活の基盤を支える公共事業に係る予算については、新庁舎竣工後も引き続き積極的な確保に努めたところ です。

そこで、今年度発注を予定する工事費の金額ですが、一般会計、特別会計、企業会計、合わせて約56億4,500万円、件数では114件を予定しているところです。

その内訳ですが、資料にもありますとおり、一般会計では約42億4,800万円、89件、特別会計では約1億4,000万円、2件、企業会計では約9億円、20件、昨年度予算の繰越分が約3億5,700万円、3件、となっており、令和3年度は100億600万円、132件ございましたので、令和4年度は43億6,100万円、43.6%の減少となったところです。減少の主な要因は、新庁舎改築関係で31億1,700万円、下水道で10億4,000万円減少したことによるものです。

令和4年度の主な事業では、新庁舎改築関係に約12億円、赤川開拓3号線道路改良工事に約3.8億円、南利根別排水機場整備に約2.2億円、南光園処理場改築に約2.6億円、市営住宅6条中央団地改築と日の出北団地外壁等改修に約4.8億円、美園小学校と明成中学校外壁等改修に約2.8億円といった工事などを予定しており、市民の安全・安心で快適な暮らしの確保や学校教育環境の向上に加えて、地域経済の活性化に取り組んでまいりたいと考えています。

次に、上半期の工事発注率です。今年度も地域経済の活性化の観点から、できる限り早期の発注に努めてまいります。

上半期の4月から9月まで、第1四半期の発注計画は、これも金額ベースになりますが、発注予定額で総額約56億1,700万円、110件、発注率は99.5%を目標としています。前年度の目標値99.6%と比較すると、0.1%の減となっています。今年度も既に24億3,000万円、全体の約43%が発注済みとなっており、請求のあった前払金の支払いを実施しています。

前払金や中間前払金は、工事期間中の建設業者の資金繰りを改善し、労働者の確保や下請業者への支払いを通じて地域経済への波及効果が期待できることから、可能な限り早期に工事を発注することによって、雇用・景気対策に努めていく方針です。

なお、これまで発注率を予算額の金額ベースで弾いて目標値にしているのですが、分母を予算額にすると、当然入札の段階で入札差金が出ますので、100%の予算額に対して発注額はどうしても下がってくるため、今後は、今検討中ですが、工事契約予定数分の契約済み数といった形で、発注率を統一していこうかと考えています。ただ今回は予算額ベースの発注率となっています。

< 質疑応答 >

(北海道新聞)

新庁舎については供用を開始していますが、今年度の改築関係 12 億円というのは具体的にはどのような工事を予定していますか。

(市長)

旧庁舎の解体工事、それから外構工事、倉庫棟・車庫棟の建築工事が主な内容となっています。

## **2 地域おこし推進員の着任について**

(市長)

岩見沢市においても、人口減少や少子高齢化が進展しているところですが、その中でも特に、旧産炭地域である万字、美流渡、毛陽、朝日など東部丘陵地域においては、高齢化率が既に 50% を超え、地域活動の担い手となる世代の不足、子どもたちの減少、買い物をする場所といった生活面の不安など、地域コミュニティとしての課題が顕著になっているところです。

そのような中で、地域に暮らす住民と連携をして地域の課題解決を図るとともに、地域活動への参加や活動の支援、地域での暮らしの魅力発信などに取り組み、東部丘陵地域の活性化と地域コミュニティの持続を図るために、活動終了後も定住して起業・就職する意欲のある方々を対象に、平成 27 年度から地域おこし推進員を配置しています。

現在、令和 2 年度に着任した 1 名の推進員が既に地域での活動を続けていますが、今年度は、4 月から 2 名が着任し、5 月 2 日からはさらにもう 1 名が着任することとなりました。

今年度、新たな 3 名の推進員が着任するわけですが、いずれも着任前から東部丘陵地域に愛着や関心を持って応募していただいた方々です。

今後は、既に着任しているお一人と合わせて 4 名の推進員が東部丘陵地域で実際に暮らしながら、地域の皆さんと一緒に地域活性化に取り組んでいくこととなりましたので、お知らせをさせていただきます。

< 質疑応答 >

(HBC)

今回着任する藤嶋さんですが、農家との連携、狩猟とあるのは、実際に猟を行う方ということになるのでしょうか。

(市長)

はい。東部丘陵地域で、害獣駆除をなさっている原田さんの下で既に研修を行っておりまして、この方が5月から正式に着任予定ということで、地域のハンターや農家の方々との連携、狩猟、ジビエ加工やアート作品の開発等に取り組みたいということです。

(HBC)

地域おこしの「協力隊」と「推進員」というのは、これは何か違いはあるのでしょうか。

(市長)

これは、国の制度が「地域おこし協力隊」制度というのですが、私どもでは「地域おこし推進員」ということで、それぞれの方を任命しているところです。

(プレス空知)

今までハンターの方は推進員でいらっしゃったのかということと、市長が藤嶋さんの活動に関して期待したいことを伺いたいのですが。

(市長)

今までハンターで地域おこし推進員として着任なさった方はいらっしゃいません。藤嶋さんについては、既に地域のハンターの方々と連携して活動の経験も積んでいらっしゃいますので、これからどうしても農業被害、有害鳥獣の駆除といった面では、例えばヒグマの捕獲頭数も年々増えてきていますので、安全・安心を守るという意味でも、また、農業被害を軽減していくという意味でも、ぜひ取り組んでいただきたいと期待をしています。また、ご自分でジビエ加工等についてもチャレンジをしたいというご希望ですので、市役所でも地域の方々と連携してサポートしてまいりたいと考えています。

(北海道新聞)

藤嶋さん以外のお二人ですが、それぞれ活動予定のところで映画イベントですとか、写生大会ですとか、特殊なお話しがいろいろと出てきているなと思うのですが、それぞれの方のご略歴というか、どういったご経歴でそれを生かしてということなのかをお聞かせください。

(市長)

私どもの地域おこし推進員は、これまで東部丘陵地域に限定をして、この4月、5月からの3名を加えると、これまでに7名の推進員に着任していただいています。その地域の中でどういったことをしたいかを基準に着任をしていただいています。4月から来ていただいている魚住さんと森末さんについては、魚住さんはまだ東海大学に在学中の現在4年生で、森末さんは、広島県のご出身で、北海道教育大学の旭川校卒業ということで、それぞれ大学で学んだことや経験を生かして、東部丘陵地域の中でいろいろな挑戦をしていただけるということで採用に至ったということになります。なお、魚住さんは千葉県のご出身で、藤嶋さんは岩見沢西高をご卒業され、酪農学園大学のご卒業ということです。

### 3 その他記者から質問

<質疑応答>

(プレス空知)

新病院の建設場所については発表されたのでしょうか。

(市長)

今日午前 10 時から開催されました、新病院建設特別委員会の冒頭に私も出席をして、これまでの検討の経過と、選定理由等々も含めて、北海道中央労災病院用地を建設地とするということで表明させていただいたところです。

(プレス空知)

労災病院用地に決められたということで、改めて、何を重要視されて決められたかということをお聞かせいただけますか。

(市長)

では、今日の発言の趣旨をもう一度振り返らせていただきます。

まず、経過について私から申し上げました。今年の 2 月 28 日に開催された新病院建設特別委員会におきまして、4 カ所の建設候補地の選定と評価を含む、新病院の骨格案をお示したところです。その後、3 月の末までの約 1 か月の間において、その新病院の骨格案に対するパブリックコメント、市民説明会、関係団体との意見交換会、地域医療構想調整会議への意見照会を実施し、そこで幅広くご意見を伺ったところですが、この中でやはり新病院の建設地に対する皆様の関心は極めて高く、北海道中央労災病院と市立総合病院との統合を前提とした新病院に寄せられている期待も大きいことから、現在に至るまで、建設地の選定作業を慎重に進めてまいりました。

新病院の建設に向けた取り組みをこれからさらに進めていくためには、やはり建設地の決定は最優先事項であるということから、2 月 28 日にお示した 4 カ所の建設候補地、これは 7 つの評価項目で評価しておりますが、この評価内容、さらには、先ほど申し上げたパブリックコメントや市民説明会、関係団体との意見交換会、そして地域医療構想調整会議で寄せられたご意見等を踏まえまして、新病院に求められる立地を総合的に勘案した結果、北海道中央労災病院用地を新病院の建設地とすることに決定したということをお伝えさせていただきました。

そこで、建設地の決定に至った考え方を具体的に申し上げましたが、現病院が抱える施設の老朽化や駐車場の狭さなどの課題を解決して、人口減少、少子高齢化の進展に伴う患者需要を見据え、持続可能な経営基盤のもとで、質の高い医療の提供ができる新病院をできるだけ早期に建設するために、一つは早期性と経済性の観点から用地取得に時間や費用をかけずに、新病院の骨格案でお示した 4 カ所の建設候補地の中から選定すべきであるということをお示したところですが、その上で、7 つの評価項目のうち災害発生時における医療の継続性につながる防災と安全性、さらには、公共交通機関等による新病院へのアクセスの確保につながる利便性は特に重視すべき項目であり、国道 12 号線に隣接した立地は、災害時においても交通が完全に分断されることもなく、救急搬送をはじめ、アクセスが確保されるという優位性が高いという考えから、先ほど申し

上げたとおり、北海道中央労災病院用地が最適地だと結論付けたところです。

なお、新病院への交通アクセスのさらなる向上につきましては、今後、公共交通事業者などの関係機関、あるいは市内の関係部署との協議を行ってまいりたいと考えていると申し上げたところです。

(北海道新聞)

空知管内で新型コロナの感染者が増えてきているというところがありますが、ゴールデンウィークに向けて、市長から注意喚起などありましたらお願いします。

(市長)

今ご指摘のあったとおり、空知管内での感染が高止まりしていて、若干増えつつあるような傾向があります。これまでは空知管内の中でも中空知・北空知が中心で、新聞でも報道されましたとおり滝川市が高い推移を示しているということもありましたが、先週くらいから南空知も増えてきているような状況かと思えます。

そこで、道の方では、ゴールデンウィークに向けた感染拡大防止の表明が恐らく今日の夕方くらいにはあるかと思えますが、その内容につきましては、空知総合振興局と管内 24 の自治体、これが連携をして広く周知を図っていくということを考えています。ホームページでの周知になりますが、一つは、帰省・旅行など移動の際には健康チェック、あるいは体調管理に十分注意してください、また、健康に不安を感じる、または検査を希望する方は出発前に検査をしましょうという呼びかけ、それから、新しい旅のエチケットということで、空いた時間や場所の旅行計画をしましょう、第三者認証を受けたお店や宿の利用をしましょう、ワクチン接種後もマスクの着用や手洗いを徹底しましょう、それから、大切な人のため、自分自身のためにも、正しい知識を持ったうえで、3 回目のワクチン接種のご検討をお願いしますという趣旨の啓発文をホームページ上で周知を図っていくこととしています。

今日の午後、確か厚生労働大臣からも、どうしても帰省等で人出が増えるので、改めて基本的な感染対策の徹底と必要な検査、ワクチンの 3 回目の接種についての呼び掛けもありましたので、それを踏まえた上で、同じような趣旨の周知をしていきたいと思っています。若干南空知も増えてきているように私自身も感じています。

あと、新型コロナに関しては、今 4 回目の接種がいろいろと言われてはいますが、国では 5 月下旬から実施をしたいということが示されていますが、既に岩見沢市ではその準備に入っておりまして、接種対象等については、国と同じように 60 歳以上の方、あるいは基礎疾患を有する方で、使用するワクチンについてはファイザー社製とモデルナ社製、これが実際にどのように入ってくるかはまだ分からないのですが、接種間隔については 3 回目接種から少なくとも 5 カ月を経過した後ということ踏まえて、早ければ令和 4 年 5 月下旬からと国では方針を示していますが、岩見沢市でも 5 月下旬から接種を開始できるように準備を進めているところです。

(プレス空知)

先ほどの新病院の建設地のことで追加だったのですが、パブリックコメントの結果、建設候補

地に対する意見が割れていたかなと思うのですが、その中でも労災病院用地に決定したのは、一番はやはりアクセスの向上のためというところだったのでしょうか。

(市長)

それぞれ重要な項目なのですが、先ほど申し上げたとおり早期性と経済性、例えばこれから新たに用地を取得する、あるいは都市計画法上の手続きが必要となるといった場合には、どうしても時間がかかりますし、新たな土地の用地取得ということになると費用もかかります。そういったことから、早期性と経済性の観点からは、まず4ヵ所の建設候補地から選定すべきという方針を最初に固め、それから、3月いっぱいのパブリックコメントや関係団体との意見交換、あるいは地域医療構想調整会議への意見照会の結果、やはり建設地の関心が多かったところで、そのご意見等を踏まえた上で、建設地については総合的に勘案して、北海道中央労災病院用地にしたということです。

また、北海道中央労災病院用地は、片側2車線を有し、なおかつ、災害時には緊急輸送道路に指定されている国道12号線に隣接していますので、その観点からアクセスの問題も含めて適地であると決定をしたというところではあります。

なお、今回事前にお配りした新病院建設特別委員会の資料の中で、3ページから新病院の骨格案に対するパブリックコメント等の結果についてという一覧が出ておりますが、委員会が終了しましたので、それぞれのご意見等については、市の考え方を整理してホームページにアップをしているところです。

(プレス空知)

ホームページにはもうアップされているのですか。

(市長)

委員会でも、私の方から建設地の選定理由も含めて申し上げた上で、ご意見のあった内容については担当からご説明をさせていただき、委員会の終了後にそれぞれの項目に対する市の考え方をホームページの方に載せますということで報告したところです。

(広報担当)

本日12時にホームページをアップしています。

(注) この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあつたものなどを整理した上で作成しています。(作成：総務部秘書課広報係)